

高輪会会報

Reunion of Tokai University Takanawadai Senior High School



東海大学付属高輪台高等学校同窓会会報

発行所：東海大学付属高輪台高等学校同窓会
〒108-8587 東京都港区高輪2-2-16
Tel.03-3448-4011 Fax.03-3448-4020



Vol.12

「高輪会」は、電気通信工業学校、電波工業学校、東海工業学校、東海高等学校・併設東海中学校、東海電波高等学校、東海大学高輪台高等学校、および東海大学付属高輪台高等学校の同窓会です。

題字は東海大学総長松前達郎先生

高輪会総会の年に 高輪台高等学校中等部開校



高輪会会長 土方 啓司

高輪会会員の皆様、本年は高輪会総会の年であります。3年毎の総会も今年で第5回となり、同窓会が高輪会として再発足してから12年の歳月が過ぎたこととなります。今年も新会員として604名の卒業生を迎え、総勢22,902名の高輪会となりました。前回、第4回総会の次の年は高輪会が再発足してから10年の節目の年でありました。高輪会10周年と高輪会の前身である東海同窓会54周年を祝して記念式典を催し多くの会員の皆様及びご来賓の皆様にご参加いただきました。また、記念式典に合わせて「高輪会10周年・東海同窓会54周年記念誌」を発刊いたしました。この記念誌は大学校友課並びに付属高等学校同窓会の皆様にも進呈し、高輪台高等学校の歴史を再認識していただくことができました。次の年には恒例となりつつあります屋形船懇親会を開催し、この会も若手を始め多くの会員の皆様と共に東京湾の夜景を楽しみながらの一時を満喫することができました。高輪会の会合或いは会報の誌上にも「高輪会の原点は昭和26年発足の東海同窓会にあり」と申してまいりましたが、そこから起算して本年は高輪会56年となります。4年後には60周年の記念すべき年を迎えることになり役員一同60周年記念式典に向かって進んでおります。

母校も中高一貫教育の理念の下、本年4月に「中等部開校」女子32名、男子52名、計84名の初々しい中学生を迎えました。入学式も今迄の新高校生に加えて新中学生を迎えたことで式場内も様変わりと言った感じとなりました。中学生の皆さんはこれから6年間、高輪台高等学校・中等部の生徒として大いに学び、楽しんでしっかりとした考えを持てるようになって欲しいと思います。一方、部活動の方も益々盛んとなり吹奏楽部の全日本吹奏楽コンクール2年連続金賞受賞、物理化学部のプラズマ・核融合学会ベスト賞受賞を始め柔道・剣道・弓道・サッカー・野球・バドミントン等、都大会上位や関東大会での活躍をしております。

冒頭でも述べましたが、今年は高輪会総会を10月に予定しております。総会に続いて懇親会を開催しますが、今年の懇親会は今迄にはなかった催しを企画しております。詳しくは総会の頁をご覧くださいなのですが、とにかく参加していただく皆様楽しんでもらえるような懇親の場をと願っておりますので、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。それでは総会・懇親会の場でお会いしましょう。

第5回高輪会定期総会並びに懇親会開催のお知らせ

第5回高輪会定期総会を 会員の皆さん、 盛大に催しませんか！

総会は、10月28日（日）東海大学校友会館（霞ヶ関ビル）内「レストランけやき」にて15時から、懇親会は、15時40分から開催を予定しています。

今回は、第5回総会を節目として記念し、大画面薄型テレビ、他豪華商品が当たる大抽選会を用意しております。会員皆様のご参加をお願いします。詳細は下記!!

第5回高輪会定期総会は、2007年10月28日（日）東海大学校友会館（霞ヶ関ビル）内「レストランけやき」にて開催いたしますが、14:30受付を開始し、15時開会、15:30に閉会を予定しています。会員皆様の多数のご参加を是非お願い申し上げます。

引き続き懇親会は同じ場所にて、立食パーティーで15:40から開始、来賓の挨拶、会員各世代の代表の方々の近況報告、そして、大画面薄型テレビ（1本）、デジカメ+プリンター（5本）、i-Pod（7本）、東京ディズニーランドパスポート（3組6名）、お楽しみ商品（10本）などが当たる大抽選会も計画しておりますので、併せて是非ご参加下さい。

なお、懇親会の参加費用として、当日の会場受付にて、3,000円（但し学生の皆様は千円）を申し受けます。総会・懇親会に参加して旧交を温めませんか？



日時：2007年10月28日（日） 14:30～ 受付
15:00～ 総会
15:40～ 懇親会

場所：東海大学校友会館霞ヶ関ビル33階（レストランけやき）

会費：3,000円 ・ 1000円（学生の皆様に限り）

問い合わせ：高輪会事務局（森 公法先生）

TEL:03-3448-4011 FAX:03-3448-4020

※ 出席される方のみ同封のハガキにて10月9日迄にご投函をお願い致します。
又、下記番号のE-mail・FAXにて出席の受付をいたします。

東海大学附属高輪台高校同窓会分室（株山久プランニング内（伊藤信雄）

E-mail: syamakyu@sepia.ocn.ne.jp FAX: 03-5414-5414

第2回屋形船懇親会、大好評 お台場の美しい夜景を満喫し懇談

東海大学付属高輪台高等学校同窓会では、高輪会の「第2回屋形船懇親会」を平成18年9月16日、午後6時から開催した。

今回の参加者は47名で、それぞれが屋形船の席を移動して会話に熱中し、内容の濃い同窓会となった。

当日は、江東区の深川「富士見」に午後5時半に集合、6時から屋形船に乗船、杉山実行委員長の司会で懇親会が進められた。まず高輪会の土方会長が挨拶、続いて、高輪台高校の杉校長が祝辞を述べられ、その後懇親会に入った。会場には、新鮮な刺身や寿司など海の幸が並べられ、なかでも揚げたての天ぷらは、運ばれるたびに参加者からは「美味しい」と大好評であった。

屋形船のコースは、レインボブリッジをくぐり、40分ほどでお台場沖に到着、一時間ほど停泊した後、深川に戻る



お台場の夜景

もので、その間は美味しいご馳走に囲まれながら、全員が美しい東京の夜景に見とれていた。

懇親会では、お世話になった担任の先生の思い出話や友達の近況、仕事の話などで盛り上がり、最後は高輪会相談役の上島大先輩の閉会挨拶で会は終了した。

16日は前日までの雨も上がり、また暑さも一息ついた絶好の屋形船日和で、参加者全員が久しぶりに「同窓の思い出のひとつとき」を満喫した。



屋形船での懇親会

2006年度高輪会クラス幹事

3月2日に高輪会入会式が本校アリーナで行われました。

今年度卒業生604名の皆さんを前に、伊藤監査役から高輪会入会の歓迎の言葉が述べられました。その後、各クラス幹事を招いて歓迎昼食会が催されました。

クラス幹事となった皆さんを紹介します。

1組	笹川 雄太	7組	松倉 翔吾
2組	山田 幹	8組	志賀 裕太
3組	谷口 鼓	9組	山口 智史
4組	高橋 枝里	10組	渡邊 智弥
5組	堀越 翼	11組	出口 辰哉
6組	勝又 智洋	12組	鈴木 隆靖



第32回東海大学高等学校連合同窓会総会について

今年の連合同窓会の総会は10月20日・21日に浦安高等学校主催で行われます。浦安高校は東京都と千葉県との間に流れる江戸川を渡ってすぐのディズニーリゾートの近くにあり、私が卒業した昭和52年が東海大学付属高校（渋谷区）として最後の年でした。4月から千葉県浦安市に移り東海大学付属浦安高等学校となりました。

浦安高校は付属高校から浦安高校を経ての同窓会50周年記念事業の行事の中で、連合同窓会総会と記念式典、記念講演が行われます。記念講演は84年国民栄誉賞、2007年紫綬褒章受賞の柔道家の山下泰裕先生です。山下先生は相模高校から東海大学へ行かれまして、私たちの年代のヒーローでした。総会が浦安高校で行われますので、本校以外の学校の様子など見ることができるので楽しみにしたいと思っています。又、大学の学部学科で同じ同級生がいますので、声をかけてみようと思います。

連合同窓会は、「多感な高校時代に東海大学の建学の精神を学んだ者は卒業してからも同じ価値観を持てるはずだ。同じ価値観を持つ者が集まれば必ず学園の大きな力になれる。お互いが切磋琢磨してお互いを高められる。」という思いから1975年に設立されました。現在は、浦安高校、相模高校、第二高校、第三高校、第四高校、第五高校、甲府高校、望洋高校、望星高校、翔洋高校、そして高輪台高校の11校で運営しています。

連合同窓会の総会では他の付属高校の同窓会役員の方々との交流ができますので、それぞれの同窓会でどのようなことをやっているか、どのくらいの同窓生の方々が集まっているのかなど日頃どの様にしていけばより多くの人たちが集まるのか、それぞれ努力されていることを親睦を図るなかで学ばせていただきたいと思っています。そのなかで同窓生の輪が広がっていくのではないかと考えています。

同期生便り

昭和53年卒B組クラス会

クラス会は、平成18年11月26日（日）に高輪台高校近くのポルトガル料理店で、催しました。

クラス担当の町田先生も九州から駆け付けていただき、卒業以来30年ぶりの再会となる方が多い中、始終和やかな雰囲気となりました。

最後に高校を観て帰ろうと言うことになり、見違えるように立派で綺麗になった校舎に一同驚き、せっかくだからと集合写真も撮らせていただき、予定していなかった二次会へと全員で向かいました。

(占部)



昭和49年卒P組クラス会

平成19年7月14日に、昭和49年卒3年P組のクラス会を開催致しました。

33年ぶりに再会した面々は皆若々しく、当時の気分になるまでに時間がかかりませんでした。また、当日は台風の中にも関わらず、志村先生・宮良先生にもご出席頂き、年月が経っても私達を愛してくれている事に感動致しました。集まった14名の元学生を代表してお礼を申し上げます。来年は同窓会を行いたいので、ご協力をお願いします。

(幹事一同)



会費納入者一覧

納入者の2007年度以降の期限を西暦年、下2桁にて示す。(卒業年順)

2007年(H19)8月31日現在

※各年度は9月1日に始まり翌年8月31日迄とする。

工業	高橋 強	11	S34	岸本 康弘	19	高橋 弘志	14	小林 慶博	11	三谷 誠治	12			
中学	寺門 道弘	09		高岩 正	14	杉田 憲司	08	S51	西宮 弘之	08	楠本 隆	16		
S25	初川 七郎	11		橘 寿一	14	平野 泰宏	19		武田 和也	10	S61	古賀 潤	10	
	平塚 慶治	09		新井 信男	10	丸田 惟久	12		福山 茂秀	10		風間 勤	08	
	長谷川善治	12	S35	今西佐恵記	10	吉田 光雄	27	S52	漆間 康志	11		鳥海 努	09	
	井坂 暉夫	25		小島 邦男	15	中村 道彦	14		水無瀬元一	09		山里 翼	09	
	夏目 芳郎	10		澤 利雄	09	武井 良友	10		田中 雅彦	10		近藤 弘康	10	
	砂押 孝司	08		小林 正二	09	山本 敏一	11		西山 博之	10	S62	光野 文雄	08	
	木村 睦	10		佐藤 毅	19	鈴木 正明	08		広村 直行	10		小島 圭市	12	
	荻久保武雄	11		宮内 重幸	08	田所 秀雄	11		山下 晃	11	H 2	風間 義徳	08	
	熊澤 勇	11		敦賀喜悦郎	18	S41	梅原 暉一	09		佐久間信次	08		原田 剛	09
	谷口 正光	11		島村 政男	10		久松 博	14	S53	二村 文啓	12	H 5	小島 淳	10
	中田順之助	12		加瀬 宰	10		實 寿夫	09		飯島 和弘	08		岩崎勝一郎	27
S26	栗田 富雄	09	S36	黒須 昇一	14		戸叶 幹男	11		長門 秀久	09		小林 健一	22
	井出 健一	20		山崎 弘	14		大塚 静雄	09	S54	飯塚 正弘	19		大井 淳	12
	奥山 貞男	11		土方 啓司	22		長井 信也	09		小林 裕	12	H 6	北垣 博康	12
	加藤 慶男	18		藤尾 智	13		初川進一郎	11		高橋 利雄	11		平山 学	13
	丸山 次郎	09		屋代 光博	11	S42	後藤 有三	09		中村 則之	15		根来 憲和	08
	早川 弘	14		新井 俊雄	09		片山 文夫	10		時岡 淳	08	H 7	増島 広通	08
	清水 正三	17		吉田 輝彦	12		安田 信義	09	S55	新井 一仁	14	H 8	伊東 卓男	09
	原 道明	09		胡屋謙一郎	19		栗田 隆	09		小池 英敏	08	H 9	青木 孝平	14
	坂路 誠	17		横山 洋一	19	S43	田中 力	17		平野 隆夫	08		横田 賢一	11
	梶山 清生	17	S37	小林 俊夫	09		三原 幸富	11		横川 忠司	10		萱森 宏樹	11
	村田 達夫	14		大塚 昭	09	S44	谷井 明	22		高橋 昇	09		高原 文彦	11
	鷹取 将夫	13		海老沢正昭	17		萩原 治生	17	S56	菅野 博史	12	H10	清水 正芳	18
	中島 秀夫	22		上条 秀夫	10	S45	石黒 孝夫	09		高津 康弘	08	H11	村野 太郎	09
	木俣 博匡	19		石塚 鵬	08		本沢 守正	10		巴 誠一	12		村田 健児	10
	戸谷 謙次	09	S38	内田 輝雄	15		重野 吉治	11		長瀬 立	12	H12	熊澤 文久	11
S27	伊藤 信雄	14		飯岡 英彦	14		須田 福男	08		神保 良孝	11	H13	宇田川佑介	11
	田島 昇	09		鈴木 征司	08		永瀬 静夫	10		日比野晃久	12	H14	渡辺 隆介	08
	小長井昭司	14		山中図南雄	09		斎 茂	10		村田 悦男	08		前田明日香	08
	黒尾 忠行	11		西嶋 正春	08	S47	浅沼 英雄	08		小野 朋昭	10		坂西 華奈	11
	田辺 英之	19		長谷川健美	09	S48	前田 周司	11		馬場 博規	12		岩本 明子	11
	大島 巖	10		間下 聿宰	14		矢部 治郎	09		小木多加志	08	H15	高橋 昌寛	11
	松田 公治	26		木村 嘉量	10		岡本 信一	10	S57	松本 仁志	12	H16	宮武 綾香	11
	渡邊 鈞	11		北野 恒介	12		千葉 守夫	11		大城 正人	17		小坪 央和	11
	吉田 申一	09		町田 茂雄	11	S49	菊池 秀雄	13		亀井 哲郎	12	H18	竹中 和宏	11
S32	谷越 安男	27		灰田 宗孝	12	S50	松本 孝二	12		米森 弘行	09		倉持 隆	11
S33	大槻 善弘	08	S39	加藤 仁	09		石川 茂樹	09		門馬 泰史	12		山田 航平	11
	砂川 雅勇	11		保谷 源吉	10		小出 信行	24		庄野 栄一	11		大谷 彰宏	11
	吉田 孝雄	08		松田 広志	08		星 俊一郎	19	S58	佐久間 励	17		横田 順平	11
	伊藤 弘治	11		佐藤 泰夫	09		上杉 健一	08		勝又 泰平	12			
	千代田 栄	14		広瀬 亮	08		岡本 吾朗	19		田村 隆彦	09			
	小林 道治	24	S40	杉山 守男	08		清水 恒二	09		野崎 潤	10			
	市川 京子	08		渡辺 一男	10		鶴沢 忠	09	S59	東郷 康二	16			

教育環境の 一層の充実化により 最先端教育に取り組む

校長
杉 一郎



本校はここ十数年間、生徒・保護者・教職員の「共育」をモットーに学校運営を行ってきました。中でも、ハード面の改革では、校舎建設・総合グラウンドの開設とクラブハウスの竣工、ソフト面では、高校男女共学化・中等部男女共学開校・文部科学省よりSSHの連続8年間指定、年4回の生徒による授業評価アンケートの実施と生徒へのフィードバック・英語に必要な4技能を身につけさせる教育実践・本校の学力水準を維持した上での重点強化部の設置、ベストティチャー制の制定（後援会主催）・高校現代文明論の基本的な枠組みによる授業の開始・高輪カップの開催など、そして、保護者に対しては、ネイティブスピーカーによる保護者のための英会話教室（無料）の実施などに取り組んでおります。

本校の教育方針の一つであります「学習と部活動の両立」は、多くの生徒がこの方針について強い意識を持っての入学であるため、多くの成果が期待でき、また期待に応えていております。これからの数年間は、更なる改革と定着に向けて教職員が一致団結して、初期の目標に向かって前進していきたいと考えています。

今年度は長年の念願でありました中等部を設置し、優秀な84名の男女生徒が第一期生として入学してくれました。高校生は姉妹として、中等部生をリードしてくれており、理想の形での学校運営が行われています。

そしてまた、教育環境のより一層の充実に向けて、今年度は、化学・生物の2つの実験室と中等部2つの普通教室の4箇所に電子黒板（アクティブボード）を導入し、工夫した授業への取り組みにより、効果が期待されております。来年度は更に31普通教室すべてに電子黒板を導入する計画を進めており、中等部と高校の両方で教育環境の充実化による最先端教育に取り組んでまいります。

私たち教職員は、卒業生の皆さんが、母校の部活動への応援をしていただけるように、また、大きな声で母校の名前が言えるように、在校生・保護者共々鋭意努力をしているところです。

昨今、多くの卒業生が母校を尋ねてきてくれる姿を拝見いたします。HP上では毎月発行している「飛躍」も掲載しており、学校の移り変わりを見ることができます。

また、学校行事等もご覧いただけますので、是非母校に足を運んでいただき、電子黒板等を使用した日々の授業や施設設備をフル活用した部活動で活躍する在校生の姿を直にご覧いただきたいと思っております。

「校歌」に思うこと

教頭
吾妻 俊治



先日、中等部1年生の「道徳」の授業で、「校歌」「建学の歌」を題材として、愛校心や、帰属意識、連帯感などを学んでいました。生徒は入学して3か月が経過した状況ですが、校歌、建学の歌の「穴埋め」問題に取り組んでいました。全問正解者もいましたが、うろ覚えの生徒や、語句を間違えている生徒もいました。驚いたのは、リズムから雰囲気似た言葉を答える間違いよりも、歌詞の意味を理解しているような間違いが多かったことです。生徒の多くは、「建学の歌」や「校歌」をきちんと「詩」としてとらえているようでした。また、「建学の歌」の「三保」「鉄舟寺」「古武士」などは、4月に三保に研修に出掛けただけに、ほとんどの生徒が正解をしていました。

私は昨年度この付属高輪台高校へ赴任して、5校めの校歌となります。高校生として「浦安」の校歌を歌い、初任として赴任した「精華女子」の校歌は、1986年の男女共学に伴い「望洋」となり、その後「翔洋」「高輪台」と異動により、新しい校歌に接してきました。すべて松前紀男先生が作曲された同じ曲を、松前重義先生が作詞され、それぞれの地域の素晴らしさをうたいながら、どの学校の校歌にも学園の「建学の精神」がしっかりと根をおろしているにつくづく実感させられています。ここ高輪台高校も、長年の伝統の中で、「校歌」の変遷もあると聞いています。卒業生の皆さんは、母校の校歌を聞くと、それぞれの青春時代に思いを馳せられるのではないのでしょうか。

東海大学付属高輪台高等学校は、男女共学になり、新校舎が建てられ、グラウンドをさいたま新都心に所有するようになり、そして本年度から中等部が設置されました。その中で毎月の初めの朝礼では、全国大会金賞受賞の「日本一の吹奏楽部」が校歌を演奏しています。卒業生の皆様は、まさか母校で男女の生徒が、中等部の生徒が、アリーナでまたグラウンドで「校歌」を歌うようになるとは思ってもいられなかったかもしれません。しかし、昔は想像もつかなかった大きな変化が、卒業生の皆様の『誇り』であり、『自慢』であることができるように、今後も本校の教育活動に全力であたりたいと思います。

中等部状況

男子校から男女共学校へと大きな舵取りをしたのが、今からおおよそ10年ほど前のことでした。当時勤務していた教員にとっては、まさか男女共学校になるとは思いもよらなかったものです。そして、実際に男女共学校となり、それまでの男子校の雰囲気とはまったく違う学校にいるかのような大きな変容ぶりを経験しました。

そしてそれから10年がたち、今度は中等部開設という、これまた思いもかけない大きな変革の波が押し寄せてきました。中等部開設にあたり、基本コンセプトの一つだったのは、「東海大学付属高輪台高等学校の中等部」であるということ。たとえば、指導する教員は高校生も教えるし中等部生徒も教え、中等部の生徒のみしか指導しないという先生は基本的にいません。また、美術を除くすべての授業でティーム・ティーチング制をとり、中心となる教科担当の先生一人以外は、同じ教科内の他の先生と一緒に授業を担当しています。職員室も中等部と高校と分けることはなく、教室も高校生と同じフロアにあります。とにかく、中等部と高校が一体化している学校ということになります。

田中 亨

中等部教頭補佐・教務主任



さて、実際に生徒達が入学し、まずは学校の中が賑やかになったといえます。職員室へ大きな声を出して質問やおしゃべりに来ます。そして、休み時間には中庭を元氣よく走りまわります。授業中は、教員のひとことひとことに大きな声で反応して活気ある授業となります。中学生はものすごいパワーを持っているな～、というのが我々教員の第一印象でした。ひとつ心配していたことは、高校生と同じ校舎内で、何らかのトラブルがでないだろうかということ。しかし、これは心配することはありませんでした。高校生を良いお手本として、学校の中での振る舞い方を学んでいるようです。また、休み時間にはめをはずしすぎそうになるとき、高校生たちの目が抑止力として働いているようです。部活動では、高校生と一緒に活動をする部もありますが、高校生の先輩たちがやさしく中等部生徒に指導してくれます。

まだ、一学年のみの中等部ですが、これから三学年すべてが揃うと、どれほど活気ある学校になるだろうか。今からとても楽しみでなりません。

新人先生紹介

本校への誇りとともに

田村 基成



東海大学代々木校舎より転勤して参りました、田村基成と申します。私は本校の卒業生であり、母校に勤務できることをうれしく思います。私が高校生のときは男子校、旧校舎での入学、新校舎建設のために新橋の仮校舎での卒業でしたが、吹奏楽部の活動に明け暮れ、充実した毎日を送っていました。その後、本校は新校舎落成、男女共学、吹奏楽部の全国大会金賞受賞、SSH取得、そして中等部開設と、めまぐるしく発展してきたように思います。本校の発展は卒業生として『夢』であり、『誇り』でありました。今後は教職員として本校のさらなる発展に貢献できるよう、全力を尽くして参ります。

田島 一代



今年度、高輪台高校に転任してまいりました田島一代と申します。ハッキリ言って高校までの勉強は嫌でした。自分から進んでやろうなどと思ったことはありません。小学校から高校までバスケットボールに明け暮れていました。ところが大学生になり、あるきっかけ（これは秘密です）によって突然勉強に目覚め、大学時代は常に学科で1番の成績を修めてきました。親や教師に「勉強しろ」と言われてもやる気にならないことは私自身が身をもって経験してまいりました。生徒たちにも素晴らしいきっかけを掴んで成長してもらいたいと思っております。よろしくお願いいたします。

上松 未来



高輪台高等学校での勤務は4年目になりますが、今年度から専任教員として勤務することになりました上松未来です。教科は理科（化学）で、1年9組SSHクラスの担任をやらせていただいています。

SSH活動で科学技術への学習意欲を高めさせることはもちろんですが、少しでも多くの生徒が理系に興味を持つように、また将来の職業選択の幅を広げられるように手助けをしていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

川島 純一



教員として走り始めてから早8年が経ち、本校に勤務して4年目になりました。高輪台の校風や日常業務にも大分慣れ、生徒や自分と向き合いながら日々向上を目指す毎日です。

ストレスの多い現代社会ですが、保健体育科の教員として「運動」・「栄養」・「休養」という当たり前の生活習慣を日々実践しながら、初心の志を忘れることなく夢に向かって生徒と共に成長していきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

江川 晶子



大阪にあります、付属仰星高校からまいりました。新しい環境になり、緊張感とともに新鮮な毎日を過ごしております。心機一転、何事にも積極的に挑戦していきたいです。2年生の担任として、ダンス部顧問として、また一人の人間として、生徒とともに喜び、悩み、成長していける関係を築くことを目標としています。いたらぬ点多いと思いますが、ご指導ご鞭撻を頂戴しながら成長してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

学校報告・部活紹介

◆高輪台と私 野球部

1996（平成8）年度卒 宮島 孝一

「おい、34番！もっと素早く動けコノヤロー！」

もちろん体育は大好きな教科だったが、この軍隊のような高校生活最初の体育の授業によって真剣に「高校中退」を考えるまでになるとは思ってもみなかった。今にも崩れそうな校舎の屋上。赤色ラバーの地面に強烈な陽射しが反射し、目を細めながら男ばかり1年生50人がタラタラと「集団行動」をしているとジャージに縫い付けてある出席番号が次々と呼ばれ、怒鳴られる。そこにワイワイ楽しい中学時代の体育の印象は少しもない。

「高校ってこういう所なのか・・・。」

体育が終わっても教室では男50人が思い思いの様子で休み時間を過ごしている。地元の友人に楽しそうな高校の様子を聞いていた自分は、もうすでに「高輪台高校」この様子（空気）に対して嫌気がさしていた。

「辞めたいな・・・。」

「親の勧め」が進学を決める一番の要因だった15歳に、入学したばかりの高校を辞めるなどという大それたことを出来るわけがなかった。腐っていても仕方ないと、入る予定もなかった野球部にとりあえず入部することにした。中学まで9年間野球をやっていたが、一生懸命練習に励んだ中学3年間はずっと控えだったこともあり、もう高校ではやらないと決めていたので、今思えば、相当な精神状態だったことが想像できる。

入部してからの2年半を回想すれば、「あっ」も出ないくらいの短さで卒業を迎えた。テニスコート1面のコンクリの校庭でひたすら素振りと基礎ノックをし、最後は主将として東東京大会ベスト8まで駒を進めることができた。今の自分にとっては「出来すぎ」の過去である。

野球という集中できる環境があった自分は幸せであった。当初、辞めたいと思ったほどのこの高校に対する印象も今は嘘のようである。それくらい高校生活というのは「情熱を傾けられる何か」さえ見つけられれば最高の時間になる。縁あって大学卒業後すぐに高輪台に



赴任し、今は地歴公民科主任・野球部監督という大きな役割を頂いて毎日忙しく、充実した時間を過ごしている。ひとつの「きっかけ」で自分の居場所を見つけた自らの例もあるが、現在の高輪台はここ数年で本当に大きな変貌を遂げたといえる。母校で教鞭をとっているという感覚が全くないというのが率直な実感だ。ただひとつ確実に言えることは、人生の転機となる「きっかけ」がそこらじゅうに転がっている宝箱のような場所になりつつあるということだ。野球部も2004年度に「重点強化部」に指定され、環境・バックアップ体制も大きく変わった。入部してくる生徒の目線も鋭さが増し、甲子園という目標がより明確に視野にとらえられてきた。ここ3年のことでいえば、自分の現役時代・教員1～2年目のオープン戦の相手校とは比べものにならないくらい強豪校と組ませていただき、毎週勉強させてもらっている。当然、初めて組む甲子園経験校には独特の雰囲気があり、常に圧倒される。重点強化部初年度の選手たちには、喜びの何十倍、何百倍惨めな想いをさせてしまった。毎週高い交通費を支払い、ボロボロになって夜中に帰ってくる。その週の平日練習もなかなか先が見えないまま必死にがむしやりにやったのを思い出す。甲子園という悲願こそ達成していないものの、ここ数年は常時ベスト16圏内には食い込めるだけの力がついてきた。2006年度にシード権を獲得したのも14～5年ぶりということで、新しい高輪台の第一歩は確実に踏み出されつつある。

これは、常日頃選手に言っていることだが、「ここから先は、本気かどうか明と暗」ということである。まだ本気度が甲子園級でないことは否定できない。選手が自分の鏡だとすれば、そのことは全て自分にもあてはまる。毎日を大切に、確実に自分そして生徒の力になるように考え、悩み、強く逞しい野球部を創り上げていこうと思う。

◆男子バスケット部の活動について

男子バスケットボール部顧問 米谷 昭人

私がこの高校に赴任してからは7年。男子バスケットボール部は選手の活躍により、素晴らしく変化しました。私が赴任する前はアリーナやロッカールーム、トレーニングルームに使用制限があり満足に練習、トレーニングをすることができない厳しい状況でした。それを選手が一所懸命に練習をして、学校生活で活躍した結果、現在では良い環境の下で練習やトレーニングが行えるようになりました。その結果東海大学学園オリンピックにおいて準優勝、3位と結果を残し、支部大会では本校初の決勝まで進みました。残念ながら準優勝でした。その選手たちは中学校で無名だった選手や、高校から始めた選手たちです。現在東海大学でも活躍しています。しかし今の選手はその苦勞を知らず現在の環境が当たり前になってしまっています。先輩たちが頑張った結果が評価され、今の環境があることを忘れさせずによりよくなるために今後は指導していきたいと思っています。

2004年度から重点強化部になるということでまたバスケット部に変化が起きました。選手ひとりひとりにプライドが生まれ、よい結果



が生まれています。しかしほとんどは今と変わらない姿勢で活動しています。たとえば成績不振者になってしまった場合の選手はいくら上手で有名でも試合には出しません。学習面でも優秀でなければ高度なバスケ

ットは理解できません。そのため文武両道ができるまで試合には出さないようにしています。しかし高校に入学してからバスケットをやりたいという生徒もやる気があれば安心して活動できます。毎年必ず素人が入部しています。その中にはキャプテンとしてチームを引っ張ったものもいます。頑張ればできないことはないのです。

現在のチーム目標は、関東大会出場を当然という考えを持って全国大会に出場することです。そのうち目標が現実となり新たな目標が生まれどんどん向上していくでしょう。そのために私がさらに勉強して、頑張る生徒に負けぬよう努力していきたいと思っています。

いろいろな社会の流れや変化にも当たり前にならぬよう、日々精進していく部活動にしていきたいです。これからも応援よろしくお祈りします。

2001	東海大学学園オリンピック 新人戦第一支部大会	3位 準優勝
2002	新人戦本大会 東海大学学園オリンピック	ベスト32 準優勝
2003		
2004	重点強化部 インターハイ都予選 新人戦第一支部大会	ベスト32 3位
2005	新人戦本大会 インターハイ都予選 新人戦第一支部大会	ベスト32 ベスト32 準優勝
2006	新人戦本大会 関東大会予選 東海大学学園オリンピック 新人戦支部大会	ベスト16 ベスト32 3位 ベスト8
2007	新人戦本大会 インターハイ都予選	ベスト40 ベスト32

◆吹奏楽部

吹奏楽部顧問 石井 みなみ

私ども吹奏楽部は、ただいま高校3年生38名、2年生59名、4月に1年生53名、そして今年から新設された中等部の生徒8名を迎え、合計158名という大人数で活動しています。部員全員で出ることができる大会や演奏会は少ないですが、どの部員にも演奏する機会を均等に与えられるよう、病院やシルバーセンター、幼稚園や小学校などといった地域の人々への演奏会を積極的に行ったり、部内だけの演奏会を企画したりと工夫をしています。

今年はすでに、4月には習志野市立習志野高等学校など、吹奏楽の強豪校3校と名古屋で合同演奏会を行い、6月には東京都高等学校吹奏楽連盟主催のバンドフェスティバルに中等部も含めた部員全員で参加し、また新入生に対しては部内ソロコンサートも行いました。どの演奏会も大盛況のうちに終えることができ、今の部員達の活動の糧となっております。

新年度早々、このような大きな演奏会に参加することができ、また部員達が厳しい練習にもめげずに生き生きと活動できるのは、昨年3年生が築きあげたもの、今の2、3年生がそれを引き継ぎ努力してきた成果と言えるでしょう。特に、全日本高等学校吹奏楽コンクールに2年連続、4度目の出場を果たし、みごと金賞を受賞することができたことや、1年間の集大成である第17回定期演奏会、3月に行われた第4回カナダ・コンサートツアーの影響がとても大きいと言えます。

今年のカナダ・コンサートツアーでは、バンクーバーを中心に現地の学校やコミュニティーセンターなどで演奏したり、また1週間のホームステイをしたりしました。音楽を通じて異国の文化に触れ、カナダの人々と触れ合い、例え言葉があまり通じなかったとしても「音楽は人と人との輪を広げる」ということを感じる事ができた、部員達にとってこれ以上ない経験をしてきました。あのスタンディングオベーションを受けたときの感動は、一生涯忘れることができないと思います。

もうすぐ夏休み。今年も私ども吹奏楽部の暑い夏が始まりました。今年の夏は5つのチームに分かれ、コンクール、演奏会に向けて今から練習に励んでいます。3年連続全国大会に出場し金賞を受賞すること、また第18回の定期演奏会が成功することを目指して、「徹底」をスローガンにまた1年精進したいと思います。



■学校・同窓会行事（2007年8月～12月）

- 8月1日（水）学園オリンピック（国語・数学・英語・造形・理科・知財・ディベート）
（7月31日（火）～8月5日（日））
- 6日（月）学園オリンピック（スポーツ大会）（～8（水））
- 13日（月）教職員一斉休暇（～17日（金））
- 25日（土）東海カルチャー・セミナー
- 9月1日（土）後援会委員総会
- 3日（月）避難訓練・朝礼・授業開始
- 4日（火）学園基礎学力総合試験・外部実力試験
- 6日（木）中学校巡回・中等部水泳実習
- 14日（金）高校期末試験（～20日（木））
- 18日（火）中等部期末試験（～20日（木））
- 21日（金）中等部写生大会
- 25日（火）体育祭
- 29日（土）保護者会
- 10月2日（火）後期始業式・後期授業開始・中学校教員説明会
- 6日（土）第43回建学祭（～7日（日））
- 11日（木）2年保護者面談（～11月22日（木））・3学年集会
- 13日（土）英語検定試験
- 14日（日）第2回受験生・保護者学校説明会（高校）
- 20日（土）2年スポーツ大会
- 25日（木）1年学年集会
- 27日（土）第2回受験生・保護者学校説明会（中等部）
- 28日（日）高輪会総会
- 11月1日（木）建学記念日（生徒休業日）
- 2日（金）創立64周年建学記念式典
- 8日（木）生徒会立会演説会
- 9日（金）後援会湘南校舎見学研修会
- 10日（土）第3回受験生・保護者学校説明会（高校）
- 15日（木）一斉公開授業（～16日（金））
- 18日（日）第3回受験生・保護者学校説明会（中等部）
- 24日（土）3学年スポーツ大会
- 29日（木）生徒による授業評価アンケート
- 12月1日（土）後援会委員総会
- 4日（火）中間試験中等部（～5日（水））
中間試験高校（～7日（金））
- 6日（木）中等部スポーツ大会
- 7日（金）中等部校外行事
- 8日（土）第4回受験生・保護者学校説明会（中等部）
- 9日（日）第4回受験生・保護者学校説明会（高校）
- 15日（土）入試相談
- 22日（土）希望者講習（～28日（金））

2005 年度活動報告

2005 年度 収支決算書
(2005年9月1日～2006年8月31日)

(単位：円)

収支	科目	予算	決算	備考
入	前年度繰越金	5,765,373	5,765,373	
	1. 入会金	5,380,000	5,380,000	@10,000×538名
	2. 維持会費	500,000	529,100	
	3. 懇親会費	0	216,000	記念式典懇親会費
	4. 積立金	0	0	
	5. 積立金繰入	0	0	
	6. 預金利息	0	437	
	7. 雑収入	0	126,000	高輪会10周年お祝い金等
	合計	11,645,373	12,016,910	
出	1. 会議費	300,000	168,174	役員会等費用
	2. 広報費	50,000	40,000	連合同窓会報費
	3. 渉外費	300,000	427,380	連合同窓会参加費等
	4. 印刷費	2,500,000	2,783,935	ラベル、出欠はがき、案内状等作成費等
	5. 通信費	2,600,000	2,501,413	記念誌・会報郵送料等
	6. 旅費交通費	250,000	310,500	連合同窓会等の交通費
	7. 事務用品費	50,000	0	
	8. 懇親会費	700,000	460,170	
	9. 記念品費	360,000	358,050	卒業記念品(証書ホルダー)
	10. 補助費	50,000	0	
	11. 慶弔費	30,000	38,060	
	12. 援助費	50,000	0	
	13. 積立金	0	0	
	14. 予備費	50,000	0	
	15. 雑費	50,000	4,410	
	次年度繰越金	4,305,373	4,924,818	
	合計	11,645,373	12,016,910	
備考(会報掲載等)				

お知らせ

□会費納入のお願い

会員の皆様には、同窓会費1年分(2千円)～5年分(1万円の一括)の納入を受け付けております。
何年分か明記の上、郵便局備え付け、または同封の振込用紙をご利用下さい。

口座番号 00100—9—155498

口座名 (加入者名) 高輪会

※氏名欄には、必ず卒業年、組をご記入下さい。

尚、すでに納入済の節はご容赦下さい。

□住所不明者の調査

会報の届かない方(住所不明者)がいらっしゃいましたら、情報(氏名、卒業年、等)を同窓会事務局までご連絡下さい。

□ホームページ開設

高輪会のホームページが開設されています。

同窓会の皆様へ同窓会をもっと身近に関心を持って戴く様に、様々な情報を発信していこうと思っておりますので、どうぞご覧になってください。

ホームページ <http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>

2006年～2007年度事業計画

(2007年9月1日～2008年8月31日)

- 2007年 9月 総会準備委員会(11日)
「高輪会会報 Vol.12」発行
- 10月 第5回高輪会総会(東海大学校友会館)
連合同窓会総会
- 11月
- 12月
- 2008年 1月
- 2月 同窓会入会式・新幹事との「歓迎食事会」
役員会
- 3月 第59回「卒業証書授与式」参列
- 4月 中等部第2回・高校第65回「入学式」
参列
役員会
- 5月 連合同窓会会長会議
- 6月 役員会
- 7月
- 8月 役員会

編集後記

今年4月に中等部が開校、高校では各分野で素晴らしい成績を上げていると、喜ばしい報告が届いています。もう一つおめでたい報告を、高輪会役員として、高輪台高校の教員としても活躍しておられる鶴岡薫先生が3月にご結婚されました。そして、今年は高輪会5回目の記念すべき総会があります。役員一同知恵を絞りと、盛大な会にしたいと考えております。ぜひ、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

同窓会連絡先

高輪会(東海大学付属高輪台高等学校同窓会)事務局
〒108-8587 東京都港区高輪2-2-16
TEL: 03-3448-4011・FAX: 03-3448-4020
ホームページ <http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>
高輪会事務局分室(株)山久プランニング内(東海大学付属高輪台高等学校同窓会 伊藤信雄)
〒107-0062 東京都港区南青山4-1-11 リライアンスビル303
TEL: 03-3405-7283・FAX: 03-5414-5414
E-mail: syamakyu@sepia.ocn.ne.jp